資料No.4-②

川岸学園構想のめざすもの（案）　R7.2.6

小口貴一郎

川岸学園構想のめざすもの（案）（保護者にも伝えてご意見をお願いしていきたい）

０　基本的な教育課程

子ども園（０～６歳）　→　前期課程（１年生～６年生）　→　後期課程（７年生～９年生）

それぞれの課程の区切りを大切にしながらも、子どもたちの交流、教職員の交流・相互乗り入れ授業等を積極的に行うことで、一体感のある学園をめざしたい。また、川岸地域や本校児童のよい面である、「あたたかな人間関係・お互いを大切に思える優しい心」を大切にすることを学校経営の基盤としたい。

１　学年を越えた縦のつながりの中でも学び合いの創出（固定しがちな人間関係を広げる）

（１）　校舎各所に交流可能なスペースを設置（多目的室、プレールーム、地域交流室、メディアセンター、あおぞらテラス、校庭等）し、自然に異学年が交流できるようにする。

（２）　連学年でのつながりを期待した「ワーキングスペース」を設置し有効に活用する。

（３）　クラブ、縦割り清掃、地区子ども会、児童会・生徒会活動や合同委員会など、縦割りが可能な活動を設定する。

（４）　音楽会、運動会などの行事への相互参加（その程度は要検討）を積極的にすすめる。

２　子どもも先生も思い切り・心ゆくまでチャレンジできる伸びやかな教育環境の創出（失敗から学ぶ、探究的な学びへ）

（１）　チャレンジ→失敗→再チャレンジの循環の中での本物の学びをめざして諸活動を実践する。

〈このような授業や諸活動を徹底していくことを本校の一番の特色としたい〉

えがおにじいろタイムの充実（えがおにじいろフィールド等の環境整備）に力を入れる。

また、「学び直し」や「チャレンジ」のできる教室や時間（チャレンジタイム）を設けていく。

（２）　５年生以上の学年（教科によって中学年からも）では、教科担任制（算数、理科、社会、図工、体育、音楽、英語等）を基本とし、専門的な深い学び、心ゆくまで探究できる学びをめざす。

３　多様な子どもたちの学びを支える教育環境の創出

（１）　相談室、サポートルームを設置し（職員を配置）、多様な子の心の居場所・学びの場を創出する。

（２）　地域の方々の力もお借りして、個別の学習への支援を充実させる。

４　地域の人々の学びの拠点となり、子どもたちの学びを支えていただく教育環境の創出

（１）　地域交流室、メディアセンターなど地域の人々が常時使用可能なスペースをつくり、学校が地域の人々にとっても学びや生きがい創出の拠点となるようにする。

（将来的には、川岸支所を川岸学園内に移設する可能性も探っていきたい）

（２）　子どもたちの学習のサポートもお願いし、「地域の学校」の具現を目指す。